10/3健康公開講座

「増えている身近ながんのお話」質問回答

Q1　膵臓がんはどこで検診をしていますか。倉吉市では膵臓がんの検診補助はありますか。

【回答】

すい臓がんの検診は倉吉市では実施しておりません。
全国的には自治体によっては超音波での検診を取り入れているところもあるかもしれませんが、5大がんにくらべて発見率が低いのではあまり普及していないのが現状です。
人間ドックなどでは超音波の検査もありますが、ご心配でありましたら個人で超音波検査等をお受けいただくしかありません。

Q2　現状のお一人（川本先生）では手術などができないのでは。

【回答】

今回お話しした前立腺がんについては、人手が要ることと、近年はロボット手術が一般的になっていることから、鳥取大学病院等へご紹介しています。
前立腺肥大症やその他の内視鏡手術（経尿道的手術）は当院でも実施しています。

Q3　医療被ばくについて
単純撮影は放射線量が少なく、CTは多いと聞きます。例えば2ヶ所同時にCTを受けるとかなりの線量になると思いますが、医療としては被ばくはあまり気にしなくていいとも聞いたことがありますが、心配なのでどうでしょうか。

【回答】

結論からお伝えすると、CT 検査の放射線量は単純撮影（レントゲン）に比べて確かに多くなりますが、医療において必要と判断された検査であれば、心配はありません。

多くの病気は放射線検査を用いることで正しく診断し、最適な治療が行われます。必要な検査を繰り返し受ける状況や全身のように広範囲を撮影することもあります。病気を早期に見つけて治療するメリットの方が、被ばくによるリスクよりも圧倒的に大きいと医師が判断した場合にのみ、CT 検査は行われます。

CT装置も進化しており、線量は以前に比べ大幅に少なくなっており、患者がいくら被ばくしたのかも把握し管理しています。当院においては、体に影響のある線量の検査は無いとはっきり言えますので、安心してください。

Q4　放射線治療でのデメリットは。（紹介された副作用以外で）被ばく量は問題ないのか。

【回答】

放射線治療は、手術のように体を大きくメスで切ることなく、がん細胞を狙い撃ちして死滅させることができる優れた治療法です。体への負担が比較的少なく、臓器の形や機能を温存できるという大きなメリットがあります。

一方で、診断するための放射線検査のように低い放射線線量とは異なり、放射線治療は、がん細胞に影響を与えるための放射線線量を外からあてるため、特有のデメリットや副作用があります。

放射線はがん細胞だけでなく、その周辺にある正常な細胞にもどうしても多少当たってしまうため、副作用が起こります。副作用は、現れるタイミングによって「急性期」と「晩期（慢性期）」に分けられます。

①急性期副作用（治療中～治療終了後数週間以内に現れるもの）

全身症状：　だるさ（倦怠感）、食欲低下、気分不快など。

照射部位特有の症状として、

皮膚：　日焼けのような赤み、ヒリヒリ感。

お腹や骨盤：　下痢、吐き気、頻尿、残尿感など。

頭部・喉など：　脱毛（照射野のみ）、口内炎、飲み込み時の痛み、唾液が出にくいなど。

※これらは通常、治療が終了して数週間～数ヶ月かけて自然に回復していくことがほとんどです。

②晩期副作用（必ずではないが、治療終了後、数ヶ月から数年経ってから現れる可能性があるもの）

照射部位のダメージ：　照射された正常な組織が硬くなる（線維化）、皮膚の色の変化、血管がもろくなることがあります。

臓器への影響：　まれに、照射した場所の近くにある臓器（肺、腸、心臓など）に慢性的な炎症や機能低下が起きることがあります。

※最近の放射線治療は技術の進歩（ピンポイントで照射できる機械の普及など）により、周囲の正常組織へのダメージをできる限り抑えられるようになっています。

以上、いろいろ示しましたが、がんの種類、がんの場所、放射線量、放射線をあてる方向などは患者それぞれで異なり、副作用が起こる場合もあれば、起きないこともあります。起こりうる副作用についてもそれぞれ違うことから、それぞれに起きるかもしれないというご説明をしてから開始します。

Q5　なぜがんになるのでしょうか。がん細胞は各部位によって異なっているものでしょうか。進行するがんと進行が進まないがんがあるのはなぜですか。良性や悪性の違いはなんですか。

【回答】

がんの原因は遺伝子が傷つくことから始まりますが、その原因は部位によって様々です。一般的に予防したほうが良いとされている（飲酒、喫煙、食生活などなど）ものが考えられます。

がんの細胞の組織のタイプはがんの部位にもよりますがある程度決まっています。

発生部位によってがんの悪性度も異なりますので、進行の程度にも違いが出ます。

良性の腫瘍は基本的に転移や再発を起こしませんが、発生部位によっては大きくなると他の臓器を圧迫したりすることもあるので生物学的に悪性と判断されることもあります。

がんや肉腫などの悪性と良性腫瘍と一番の違いは進行すると転移・再発を起こすことがある点です。

Q6　厚生病院のマンモグラフィは3Dマンモグラフィ（トモシンセシス）になっていますか。

【回答】

当院のマンモグラフィは 3D トモシンセシスです。

3D トモシンセシスは、乳房を圧迫したまま X 線管球がアーチを描くように半円を描きながら移動し、連続して複数枚の写真を撮影する方法です。撮影したデータをコンピューターで再構成することで、乳房の内部を「1mm 単位の薄いスライス画像（断面）」として立体的に見ることができるようになり、がんを発見する精度が向上しています。